

三世代に繋ぐ「阪神・淡路大震災」から学ぶ自主防災

仁川町2丁目自治会

事業費 226,665 円

助成額 100,000 円

●当初の課題・事業目的

[阪神淡路大震災]から四半世紀が経ち、当該地区も大きな被害を受け、当時を顧みる時、次世代に繋ぐ事が重要です。震災後発足した「自主防災組織」が機能して、住民の意識向上を図る事が大切です。

被害状況の写真、地域の復興状況、自主防災会の活動状況を目で見て、子供にも理解しやすい「写真パネル展示会」を実施します。又、地域版の冊子「自主防災組織について」を作成します。



会長 古川 健造

●事業概要

先ず、コロナ禍の中、当初予定していた「語り部」、「避難訓練」などは次年度以降に延期し、今回は「写真パネル展示会」に集約して、11月27日～29日に仁川駐輪場集会所で開催致しました。西宮市よりお借りした被害写真のコーナー、仁川町2丁目の被害と復興写真のコーナー、防災倉庫の資機材、AED（体外式除細動器）の展示コーナーに分けて展示しました。皆様には意識向上に貢献できたと思います。

開催に当たりオープニングセレモニーでは、仁川町2丁目で亡くなられたご遺族の方の参加も得て、「黙祷」から始まりました。又、ご遺族の方の体験談は衝撃でした。

参加人数は57名で内6家族8名のお子様連れでした。アンケート調査総数は36名で全員からイベントの満足の回答を得る事が出来ました。



●事業の成果・工夫した点

写真パネル展示会は被害写真、復興写真など50枚の写真を見る事で、大人の方、又、お子様にも分かり易かったと思います。

AEDの設置場所や開設時間等のパネル展示や消火栓のマッピング（冊子に掲載）も関心呼びました。作成した冊子は保存版として全戸に配布しました。

●苦勞した点・今後の課題

コロナ禍の中での開催で手指消毒、体温測定、マスクの着用、テーブルや筆記用具のアルコール消毒、又、3密を避けるなどの対策を取って実施しました。案内は回覧板（お子様同居世帯は配布）とし過度な動員は避けました。

次年度は関心の高い防災訓練を実施（指定避難所への避難訓練など）したいです。

●責任者の感想

参加者からは大震災を風化させない為、節目で開催を願う声がありました。西宮市から、パネル写真や指定避難所のパネル貸し出し、冊子の作成・協力、消防署からAEDの貸し出し、土木事務所から復興工事期間などの情報提供等、多数の関連部署の応援を得て実施する事が出来ました。お礼申し上げます。